

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
246	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Maternal periconceptional alcohol consumption and risk of orofacial clefts. 母体のアルコール飲酒と口腔顔面裂隙の危険性について	
執筆者	
Romitti PA, Sun L, Honein MA, Reefhuis J, Correa A, Rasmussen SA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2007 Oct 1;166(7):775-85.	
キーワード	
飲酒、症例対照研究、口唇裂、口蓋裂、葉酸、妊娠	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>The National Birth Defects Prevention Study のデータを元に母体の飲酒と裂隙症の関連を明らかにする。</p> <p>方法：</p> <p>The National Birth Defects Prevention Study のデータを元に 1997 年から 2002 年に出産された口唇裂、口蓋裂、口唇裂および口蓋裂合併の症例と非罹患者を研究対象とした。口唇裂、口蓋裂、口唇裂および口蓋裂合併症例 1749 人(75.1%)と非罹患者 4094 人(68.2%)の母親から面接にて飲酒に関する情報を聴取した。飲酒と裂隙症の関連を検討するため調整オッズ比(OR)と 95%信頼区間(95%CI)を求めた。</p> <p>結果：</p> <p>飲酒しないと報告した母親と比較して飲酒している母親は口唇裂および口唇裂・口蓋裂合併の OR は同等であったが、口蓋裂の OR は上回っていた(1-4 drink/day; OR = 1.3, 95%CI, 1.0-1.9, 4-15 drink/day; OR = 1.1, 95%CI, 0.8-1.7, 16-30 drink/day; OR = 1.1, 95%CI, 0.6-1.8, &gt;30 drink/day; OR = 1.1, 95%CI, 0.6-2.2)。大量飲酒者の OR は上昇していたが、どの表現型においても統計的に有意なリスク増加は認めなかった。しかし、飲酒の種類により OR は異なり、特に口蓋裂では蒸留酒&gt;ワイン&gt;ビールであった。これらの OR の値は葉酸を摂取していない母親ではさらに上昇していた(蒸留酒; 葉酸摂取有, OR = 1.2, 95%CI, 0.8-1.9, 葉酸摂取無, OR = 3.6, 95%CI, 1.7-7.4 (葉酸摂取有かつ非飲酒者を対象とする))。</p> <p>結論：</p> <p>これらの結果から飲酒と裂隙症の関連は飲酒の種類や葉酸の摂取の影響を最も強く受ける可能性が示唆されるが、予備研究であり偶然の結果である可能性もある。よって、これらの結果からさらに追加および大規模な調査が必要である。</p>	